

卒業後の私

「卒業して、今思うこと」

川 満 文 乃 (平成20年度文学部国文学科卒業)

私が別府大学を卒業し、早2年が経ちます。この間、臨時教員として働くことができました。卒業後まもなくの4月から沖縄県竹富町立鳩間中学校へ勤務しました。小中併設の全児童生徒4名の学校で、教科は国語・社会・音楽、校務分掌は中2担任・道徳等です。離島の唯一の学校で、星砂採集、カヌー・シュノーケリングなどの授業もありました。中学は3人の教員配置で、新任の私にも多くの責任と担当がありましたが、先生方や地域の方から丁寧な指導や助言を頂き、本当に充実した1年目を過ごすことができました。

卒業後2年目は4月から半年間、宮古島市立狩俣中学校で勤務しました。私は1年担任として、週刊学級通信の作成を心掛けました。21号まで発行し、生徒や保護者から楽しみだとの声が嬉しかったです。「少年の主張大会」では、作文の推敲、発声や抑揚などの指導を行ないました。時間をかけ練習した結果、生徒の自信に繋がりが、また達成感も得られたと思います。教育の面白さと力を、肌で感じた出来事でした。

この2年間、初めてだらけで悩みも苦労もありましたが、すべてが貴重な体験でした。その中で感じたことを以下にまとめます。

1、生徒理解の大切さ…

何が好きで、何を頑張っていて、何が苦手
で、何を思っているか

2、学校・保護者・地域連携の重要さ…

親心と、教師の教育観の充実した連携

3、教師としての志…

生徒からは人生の先輩、先生方からは新米教師、保護者からは子どもの指導者であることを忘れず、自分の教師像を常に持つこと

今はまだ「教師が天職だ!」との自信は持てませんが、生徒との関わりの中でやりがいを少しずつ発見しています。生徒にとって分かりやすく興味を持てるような授業作りを考えることは楽しく、共に汗や涙を流せる教師は素敵な職業だと信じています。「努力は報われる」の言葉を胸に、大学生活やこれまでの経験を糧として、まずは採用試験合格を目標に、生徒と学び合える教師をめざしたいと思います。

別府大学での学びを活かして

佃 拓也（平成20年度文学部史学科卒業）

教職大学院へ

私は、別府大学在学時に教育実習に臨みました。そのときに、教師という職業は授業だけではなく、学級経営も必要なのだと知りました。そこで、私の授業力、子ども理解力、学級経営力をもっと高めたいと考え、奈良教育大学教職大学院へ進学を決意しました。

教育実習のときに、子どもたちと直接関わることの楽しさを覚え、教職大学院へ進学する際には、小学校の免許状も並行して取得するようにしました。

教職大学院での学びと「合格」

教職大学院に進学して、教師として成功していく自信を持つことができはじめました。教職大学院のカリキュラムに進んだ当初は、教育について知らないだらけの私に気付かされました。教材研究という言葉をよく耳にしますし、私自身使っています。しかし、教材研究とは授業を行う上でどの部分を指す言葉なのかを全くと言っていいほど知りませんでした。

最初は、無知の自分に気付かされましたが、現在は講義で様々な理論を得て、それを実習の場で実践していく日々を過ごしています。講義では、授業の技術から生徒対応、学校組織の在り方等、様々な学びを得ています。それを実習の場で検証し、自分の力になるようにしています。このような理論と実践の往還をすることで、教師として成功していく自信を持つことができるようになりました。

このような自信を持つことができた結果、平成23年度奈良県小学校教員採用試験に合格できたの

だと思っています。

在学生の皆さんへ

みなさんが教師を志した動機を思い返すと、憧れの先生を思い浮かべるはずです。その先生に近づくためには、今の自分に何が足りないのか、その足りない部分をどのように改善していくのかを考え行動していくことが、教師への道を後押ししてくれると思います。今、大学で学べる環境を最大限に活かして、後悔のない選択、行動をしていただきたいです。

